

乾致遠方水練作餅名曰蕨餅

〔寛政四年武鑑〕松平肥後守容頌津奥時獻上八漬蕨

青山大膳亮幸完美濃時獻上八千蕨一箱 九鬼定五郎隆卿丹波時獻上四蕨粉

〔延喜式三十九〕漬年料雜菜

蕨二石料鹽一斗右漬春菜料

〔續修東大寺正倉院文書三十二〕造佛所作物帳斷簡原註云、年記不詳、按成卷文書四十五卷所收天平六年造佛所作物帳中卷斷簡、恐與此同物也、

買雜菜直錢廿一貫七百十六文中略

蕨五千二百九十六把、直一貫三百廿四文文別四把

〔出雲風土記意宇郡〕凡諸山野所在草木中蕨ワラビ

〔萬葉集春〕志賀皇子權御歌一首

石激垂見之上乃左和良妣乃毛要出春爾成來鴨イハシタルミノウノサワラビノモエイツルハルニナリニケルカモ

〔古今和歌六帖六〕わらび

みよし野の山の霞をけさみればわらびのもゆる煙なりけり

〔古今著聞集偷十二〕花山院の粟田口殿の山のわらびをあまりに人のぬすみければ、こもり縁淨法師よみ侍ける、

山守のひましなければかきわらびぬす人にこそいまはまかすれ

〔古今著聞集飲十八〕別當入道北しら川にすみ侍ける比山のわらびをおりて、相國の許へつかはせり、返事に、

思ひやる二木の松の下わらびおりてきつらんみねぞしらる、